

115番による信書の送達サービス受付への 接続方法について

ソフトバンクBB株式会社
ソフトバンクテレコム株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社

2008年5月22日

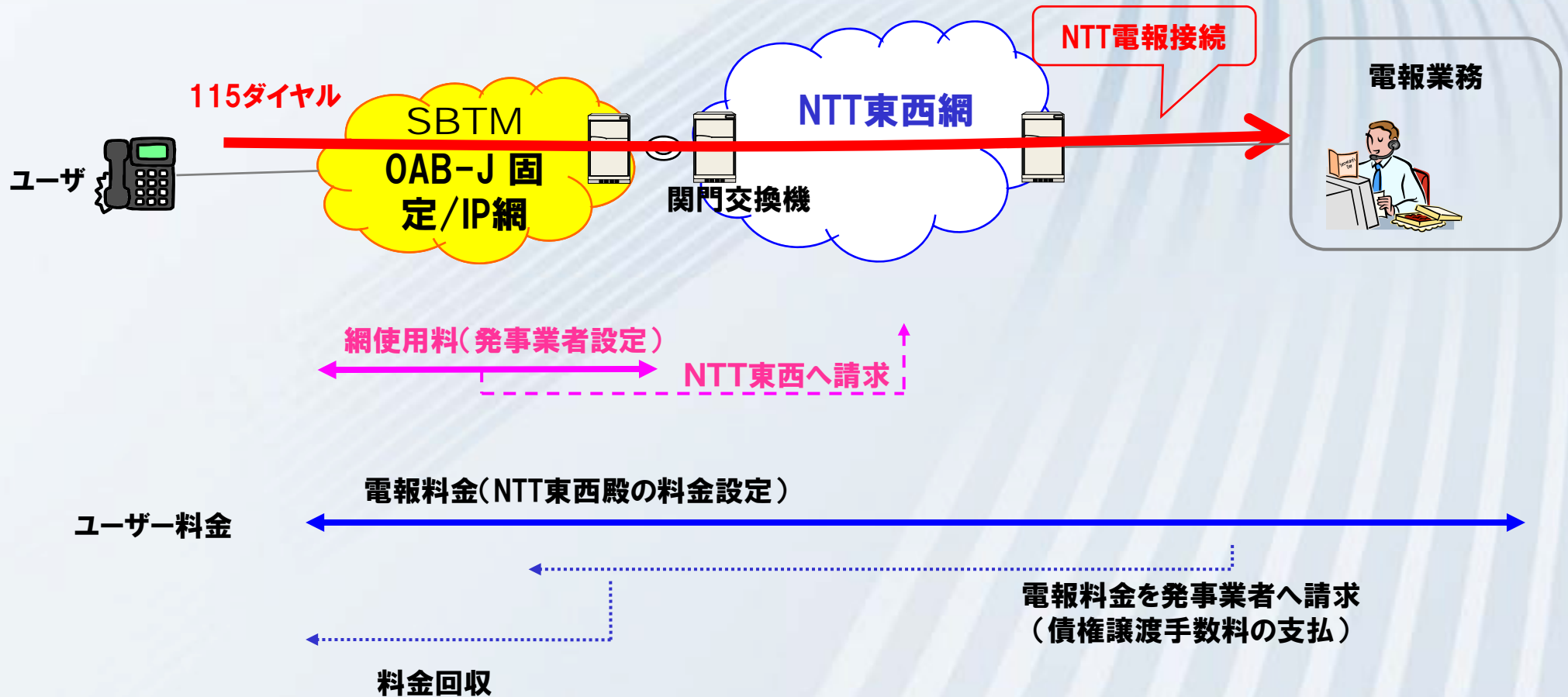
I. 115番 SBグループ接続の現状

115番接続状況

事業者名	サービス名	サービス区分	115接続事業者
SBM (ソフトバンクモバイル)	ソフトバンク 携帯電話サービス	携帯電話 (2G/3G)	未提供
SBTM (ソフトバンクテレコム)	おとくライン (アナログ/ISDN)	固定電話	NTT東西
	BBフォン光	0AB-J_IP電話	NTT東西
SBB (ソフトバンクBB)	BBフォン (050IP)	050IP電話	未提供※1

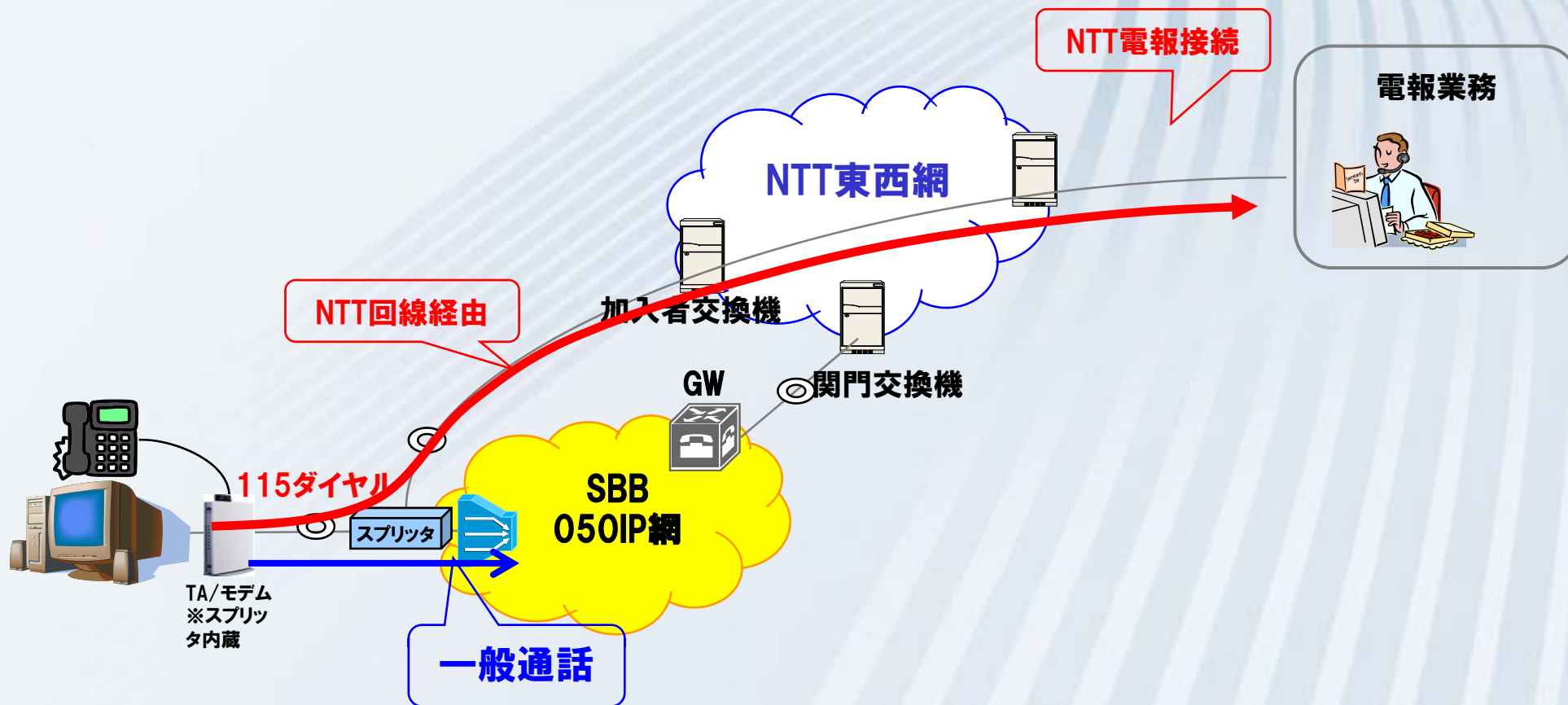
※1)NTT東西殿の固定電話経由で接続

【固定・0AB-J IP】115番の接続概要図



【050 IP】115番の接続概要図

050IP電話の利用者の多数が固定電話重畳型であり、NTT東西網経由で115番に接続。(当社未接続)



※電話重畳型でない利用者からの115番接続は未提供。

II. 115番の使用について

115番使用について

- 115番の使用状況を踏まえ、115番は電報と信書の送達サービス受付番号として使用するべき。

<理由>

- 115番以外の番号使用は、既存利用者に混乱をもたらす懸念があり、また新規番号の利用者周知に費用及び時間が発生する。
- NTT電報は115番を利用し、他事業者は例えば0120又はプレフィックス番号を利用することは競争上において問題がある。

III. 条件及び接続方法等について

条件及び接続方式について

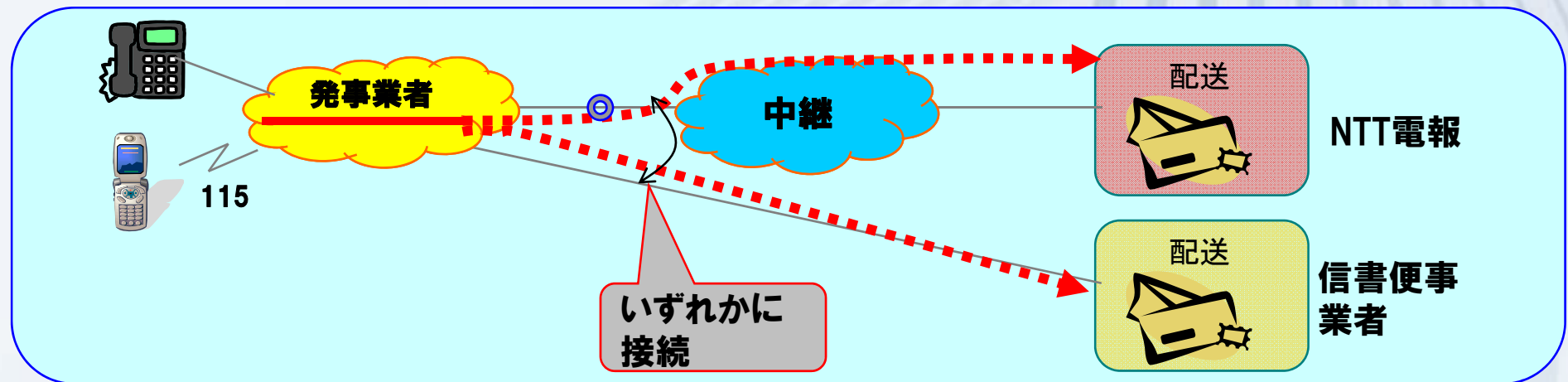
信書の送達サービス受付用番号に115番を使用する場合

案	接続先条件	接続方式	増加費用※	利点	検討事項
1	<p>・発事業者による選択</p> <p>①NTT東西の電報受付 ②信書の送達サービス事業者受付</p> <p>(①②いずれかの事業者)</p>	<p>発事業者が選択した事業者(1社)へ接続</p>	<p>少額</p>	<p>・ネットワークやシステム等の改修が少ない。</p>	<p>・接続済み事業者がNTT電報から信書便事業者へ切り替える場合、利用者周知が必要。</p>
2	<p>・利用者による選択</p> <p>①NTT東西の電報受付 ②信書の送達サービス事業者受付</p> <p>・発事業者と接続を合意した①及び②事業者(複数)から選択。</p> <p>(デフォルト設定あり)</p>	<p>事前登録方式</p> <p>・Web,CS,IVR等で事前登録した事業者へ接続。</p> <p>・未登録時は、デフォルト事業者(発事業者選択)へ接続</p>	<p>2</p> <p>SBM:約10億円 SBTM:約10億円 SBB:数億円(前半)</p> <p>3_①</p> <p>SBM: 2と同様 SBTM: 2と同様 SBB: 2と同様</p>	<p>・利用者はデフォルト事業者又は他の事業者への接続を選択できる。</p>	<p>・事前登録等利用方法の変更について、利用者周知が必要。</p> <p>・事前又は利用時に操作が必要なため、利用者利便性が低下。</p> <p>・増加費用のユーザ料金への影響懸念(115開放メリットの低下)。</p> <p>・案2は、デフォルト以外の事業者の選択率が非常に低いと想定。</p>
3	<p>・利用者による選択</p> <p>①NTT東西の電報受付 ②信書の送達サービス事業者受付</p> <p>(デフォルト設定なし)</p>	<p>①事前登録方式 デフォルト設定なし</p> <p>②ガイダンス方式 ダイヤル後に接続先事業者を都度選択</p>	<p>3_②</p> <p>SBM:数億円(後半) SBTM:数億円(前半) SBB:数億円(前半)</p>	<p>・利用者は複数事業者から選択できる。</p>	<p>・複数信書送達サービス事業者からの接続要望への対応。</p> <p>・増加費用の事業者間按分方法。</p>

※増加費用には課金、事業者間接続構築及びSBBモデム改修費用は含みません。

【案1】 発事業者による選択

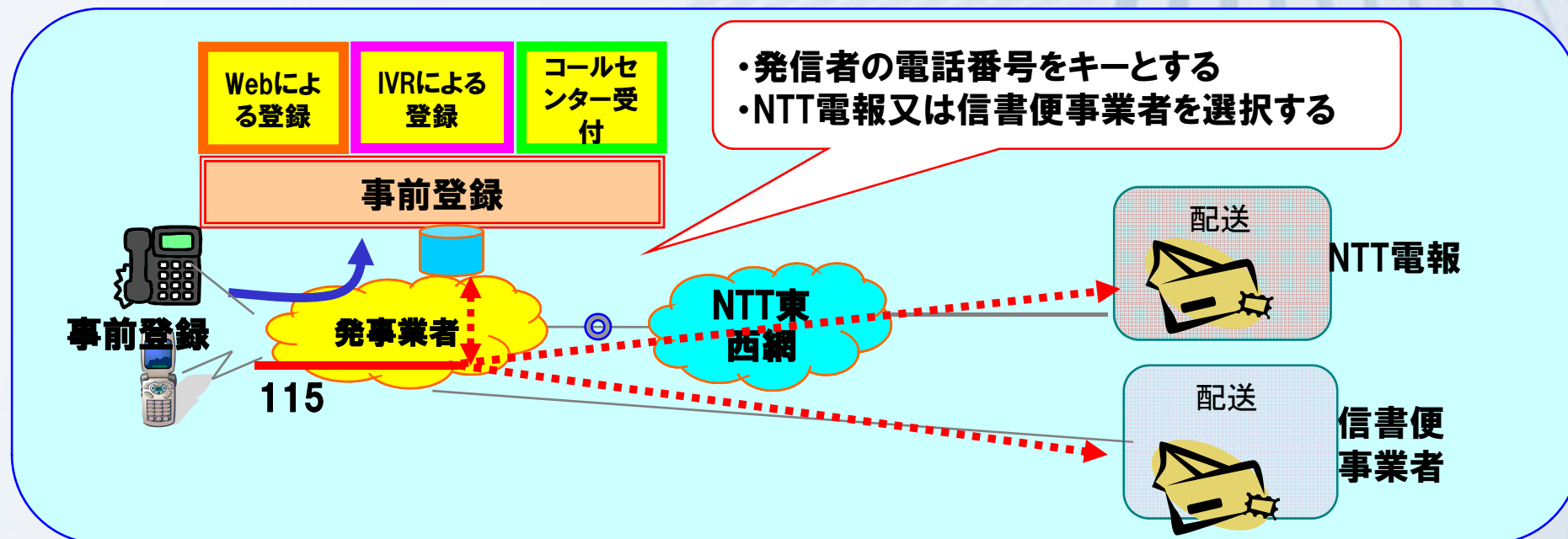
NTT東西の電報受付、又は信書の送達サービス事業者受付への接続



- ・利点
ネットワークやシステム等の改修が少ない
- ・確認事項
接続済み事業者が NTT電報から信書便事業者へ切り替える場合、利用者周知が必要。

【案2】 **利用者による選択** (デフォルト設定あり)

事前登録方式によるNTT東西の電報受付 及び**信書**の送達サービス受付への接続



・利点

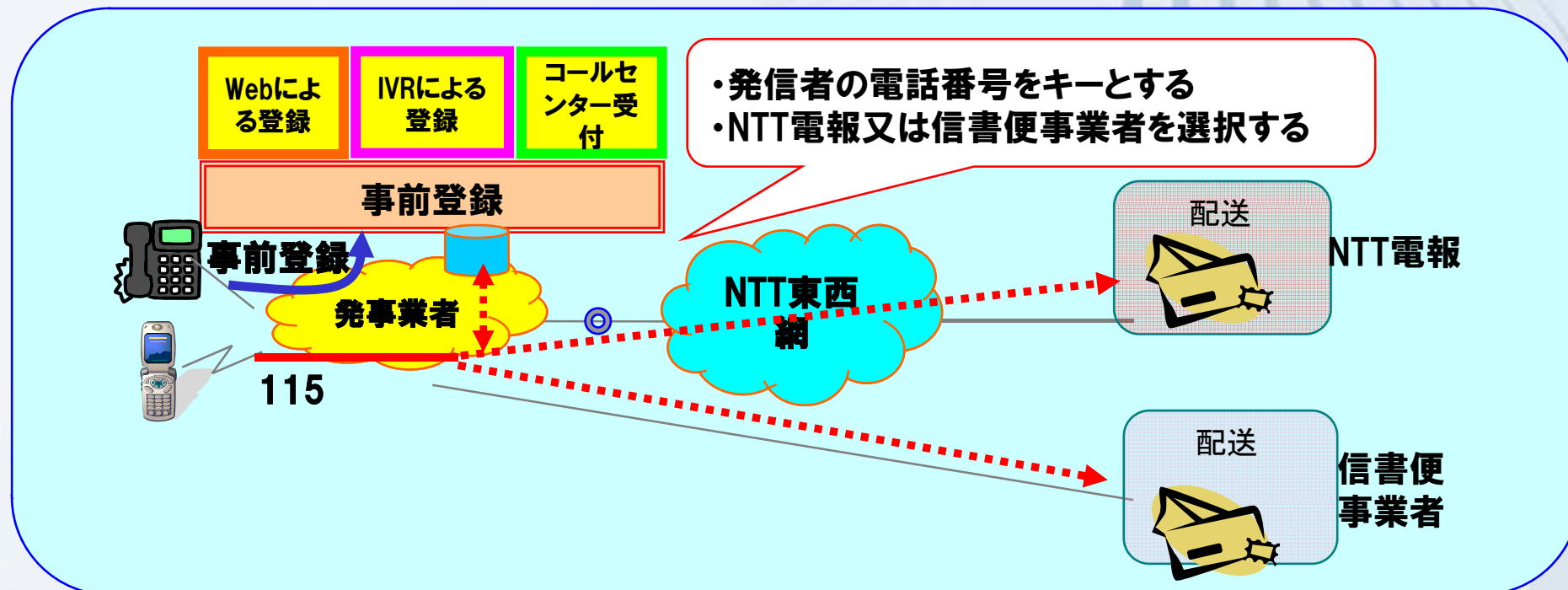
- ① 利用者はデフォルト事業者又は他の事業者への接続を選択できる。

・検討課題

- ① 事前登録等利用方法の変更について、**利用者周知**が必要。
- ② 事前操作が必要なため、**利用者利便性が低下**。
- ③ 増加費用の**ユーザ料金への影響懸念**(115開放メリットの低下)。
- ④ デフォルト以外の事業者の**選択率が非常に低い**ことが想定。
- ⑤ 複数信書送達サービス**事業者からの接続要望**への対応
- ⑥ 増加費用の事業者間**按分方法**。

【案3】利用者による選択 (デフォルト設定なし)

①事前登録方式



・利点

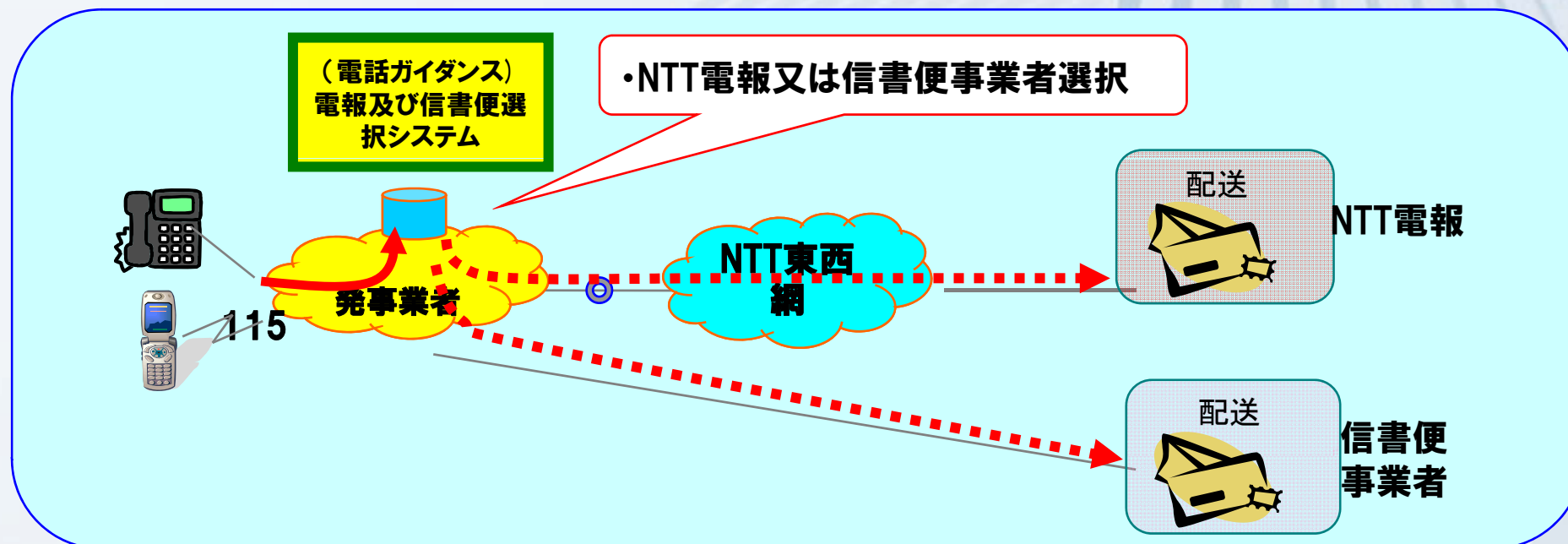
- ① 利用者は複数事業者から選択できる。

・検討課題

- ① 事前登録等利用方法の変更について、利用者周知が必要。
- ② 事前操作が必要なため、利用者利便性が低下。
- ③ 増加費用のユーザ料金への影響懸念(115開放メリットの低下)。
- ④ 複数信書送達サービス事業者からの接続要望への対応
- ⑤ 増加費用の事業者間按分方法。

【案3】利用者による選択 (デフォルト設定なし)

②ガイダンス方式



・利点

- ① ・利用者は複数事業者から選択できる。

・検討課題

- ① 利用方法の変更について、利用者周知が必要。
- ② 利用時に操作が必要のため、利用者利便性が低下。
- ③ 増加費用のユーザ料金への影響懸念(115開放メリットの低下)。
- ④ 複数信書送達サービス事業者からの接続要望への対応
- ⑤ 増加費用の事業者間按分方法。

IV. その他の課題

料金回収に関する課題

UNI/NNI接続

NNI接続

- ・事業者間においてISUP信号で発信者番号が送付可。
- ・課金先電話番号の取得可



【課題】

- ・信書便事業者の通信事業者として届出が必要。
- ・NNI接続のため相互接続用設備構築が必要。

UNI接続

- ・発番非通知(184)の場合、課金先電話番号の取得が不可



【課題】

- ・通信料と合わせて料金回収したい場合、番号非通知時の対策が必要
- ・186+115の再ダイヤルを促すか、又はクレジット等の決済となることが想定。